



代表の佐藤親氏

経営概要

- ◆代表者、所在地
佐藤親、福島県桑折町
- ◆設立年
令和5年1月
- ◆経営規模
水稲 15ha、モモ 7ha、リンゴ 2ha、
水稲作業受託 5ha
- ◆従業員数
正社員2名、臨時雇用3名
- ◆事業内容
町の特産品である桃を主軸に複合経営に取り組む。

1 現状及び相談内容

平成23年に法人化を検討したものの、原子力災害の影響により断念した。

当時から継続して雇用してきた従業員の技術力向上により経営規模・所得が拡大し、さらなる**人材確保や経営の合理化が必要になったことから法人化を検討したい**と令和4年10月に相談があった。

2 支援内容

農業会議による**経営診断**や、税理士による**人材雇用等のキャッシュフローに関する助言**を行った。

また、社会保険労務士による**確定給与と法定福利費の設定に関する助言**を行った。

3 人材の確保・育成に資する取組

★地域農業を担う人材を確保・育成するため、地域おこし協力隊との連携や地元の農業短大生の研修受け入れなどを実施

■町と協力

地域おこし協力隊を集い、3年の任期中に技術を継承していく。

町は、隊員が中心となった担い手組織をつくり、地域農業を任せていく計画を有している。町内に空き家もあるので住居用に確保した。

■所定休日設定と安全確保

社会保険労務士の支援を得て**週休2日制を導入した。月給制により就業の安定を図った。**

作業中の安全性を考慮し、単独作業を行わず必ず複数の者で確認のうえ、作業することとした。

■的確な時期と効率作業

的確な作業時期を逃さないよう**手順確認のフォローを行ったことで、従業員に指示をしなくても自発的に作業を提案するようになった。農業短大学生の研修を受け入れ、指導しながら効率的な作業方法を考えてきた。福島県指導農業士として地域農業者の相談にも生かしている。**



田植え作業を指導している様子

今後の意気込み

10年後に事業承継できるよう計画を作る。地域おこし協力隊のS君に技術を伝達中。地域での担い手確保のモデルになりたい。

専属スタッフ所感

法人化のきっかけが事業承継の方法を検討する過程にあった。町と一緒に担い手確保の方策を練っており、一緒に経営継続を支援していく。